

(様式1)

令和3年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	児童生徒一人一人の障害の状態や特性に応じて、資質・能力の育成をめざし、自立と社会参加の達成を図る。	学校整理番号	特20			
(2) 現状と課題	小学部27名、中学部17名、高等部49名、計93名が在籍し、そのうち18名が隣接するはまゆり学園に在園している。認可学級は22学級であるが、指導学級として編成している20学級のうち12学級が重複学級となっており、障害の重度重複、多様化が進んでいるほか、高等部在籍数も増加傾向にあることから、児童生徒一人一人に応じた指導の更なる充実が求められている。また、昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に努めていく必要がある。 むつ下北地区唯一の特別支援学校であることから、就学や教育などに関する学校や保育所等、市町村教育委員会への支援のほか、移行支援に関する施設や事業所との連携について、更なる充実が求められている。	学校名	青森県立むつ養護学校			
(3) 重点目標	1 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開 2 キャリア発達を促す指導の充実 3 地域と連携・協働した活動の推進 4 情報化に対応した活動の推進 5 生涯スポーツの振興	対象障害種別	知的・肢体			
(4) 結果の公表	・令和4年2月4日(金)、10日(木)、16日(水)に開催した学部ごとの参観日において、学校評価の結果の説明及び要望事項への回答を行った。 ・令和4年2月3日(木)に開催した学校評議員会議にPTA会長にも出席いただき、教職員による年度末反省、教職員による自己評価や保護者アンケートの結果を説明するとともに、学校関係者評価を行った。 ・来年度4月に行われるPTA総会において、令和3年度学校評価結果報告書等の説明を行うとともに、同内容を学校ホームページにて公開する。	自己評価実施日	令和4年1月25日(火)			
		学校関係者評価実施日	令和3年2月3日(木)			
		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成 ・学校評議員6名(施設関係者4名、企業関係者1名、地域住民1名) ・保護者(PTA会長)1名 ・計7名				
自 己 評 価						
自 己 評 価		学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況		(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等
1	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開	①主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教育活動の実施 ②感染症対策及び医療的ケアの全校体制での確実な実施	おおむね達成 ・日々の授業の中で、児童生徒が自ら考え、進んで取り組むための工夫した実践が見られた。 ・「本校の新型コロナウイルス感染症に関する学校運営ガイドライン」を教職員で共有し、必要に応じて改訂し、対策の徹底に努めた。 ・緊急時対応訓練を延べ4回当該学部職員を中心に実施し、校内体制の整備を進めた。	B	児童生徒個々の思いや願いを達成するために保護者や関係機関等の連携を図るとともに、医療的ケアの適切な運用と充実させるため取組を継続するとともに、専門性の向上に努めてほしい。 ひとりひとりの発達の段階に応じて学びの課程を大切に指導していることが、成長につながっているため、継続して取り組んでほしい。	・個々の実態や発達の段階を踏まえるとともに、学年や学部間の連続した学習内容を設定する。 ・教職員の危機管理意識を高く保ちながら、保護者や関係機関との共有や周知を行う。 ・最新の情報をもとにしたガイドラインの見直しや研修会を適宜実施する。

2	キャリア発達を促す指導の充実	①児童生徒の思いや願いを踏まえた指導の展開 ②自立と社会参加をめざした指導内容の整理と指導方法の工夫	おおむね達成 ・児童生徒の思いや願いを踏まえた学習活動を教師間で話し合うなど日々の授業実践が見られた。 ・児童生徒が、様々な活動場面で自立と社会参加につながる取組の姿が見られた。	B	様々な学習場面において、できることを探り、指導を積み重ねていくことで成長を促しており、これまでの取組を継続するとともに更なる指導の充実に努めてほしい。	・ひとりひとりの障害の状態に加え思いや願いを的確に捉えた授業実践を継続する。 ・学びが校内に留まらず校外での学びにつなげられるような指導内容の設定や工夫を図る。
3	地域と連携・協働した活動の推進	①地域の人材や資源を活用した指導の展開 ②交流及び共同学習の計画的・組織的な実施	おおむね達成 ・外部専門家と体験的に学ぶ機会を設定したことで、児童生徒が意欲的に活動に取り組む姿が見られた。 ・居住地校交流において、リモート交流から対面交流と段階的な取組を進められた。また、来年度から全県実施となる交流籍を踏まえ、本校独自の実施マニュアルを作成できた。	B	居住地校交流や学校間交流など将来を見据えた活動になっており継続して取り組んでほしい。 地域との交流活動の更なる充実に努めてほしい。	・外部専門家による指導助言を得る機会のほか、教職員同士が学び合う活動を実施する。 ・マニュアルを検証、改善を図りながら実施する。
4	情報化に対応した活動の推進	①ICTを活用した指導の展開 ②保護者や関係機関等と連携した活動の実施	おおむね達成 ・授業において職員のICT活用ばかりではなく、児童生徒が一人一台の情報端末を活用して、学習する姿が見られた。 ・ホームページにおいて児童生徒の学習の様子を毎日更新し、閲覧数が67万件達成された。	B	地域との連携や児童生徒の学習の充実を図るために、ICTの活用はとて有効であり、先進的に進めている他校の実践を参考に積極的に取り組んでほしい。また、学校内に留まらず、家庭への発信も進めてほしい。	・ICTに関連させた校内研究による専門性の向上の機会を設定するほか、教職員間の意思疎通を促進する取組を進める。 ・ホームページの閲覧の傾向を分析し、掲載内容や方法など情報発信の工夫を図る。
5	生涯スポーツの振興	①各種スポーツ体験（やる、見る、関わる）の拡大 ②校内外の諸大会等への参加	おおむね達成 ・小学部では体育の授業にボッチャを取り入れたり、中学部と高等部が連携し競技を進めたりなど全校で取り組む姿が見られた。 ・教職員対象にパラリンピックスポーツの研修会を、年2回実施したことにより、職員の指導の充実に繋がった。	B	国内においてオリンピックやパラリンピックに関連する競技の盛り上がりを感じる。学校においても様々な学習機会の中で取組を進めてほしい。	・校内大会及び校外の諸大会、授業等において機会を設けるなど、スポーツへの関心を高める取組を工夫する。 ・パラリンピックスポーツに関する職員の研修機会を継続することで職員の専門性の向上を図る。
(11) 総括	教職員による年度末反省では、学校経営の重点として設定した5項目のうちほとんどがB評価であり、予定通り達成できた。保護者及び教職員ともに評価点4及び3の項目が8割以上であることから、今年度の教育活動についておおむね良好な評価をいただいております。引き続き教育活動を充実させていく必要がある。 教職員と保護者の双方で「地域に開かれた学校づくり」や「学習活動の情報提供」の項目評価が高かったことから、引き続き児童生徒の思いや願いを大切にされた教育活動に取り組むと同時に、様々な機会を捉えて学習の成果を披露、発信していく必要がある。 学校運営については、新型コロナウイルス感染症対策を徹底すると共に、各学部の行事等の見直しや各分掌における業務内容の整理を進め、教職員の業務改善に努めていく必要がある。					